

第7期 活動報告書

2020.12-2021.11

2021



一般社団法人

ふくおかFUN

Field & Underwater Naturalists

福岡の海、 地球の海を守りたい

海にはたくさんの魅力が詰まっています。

それはため息の出るような自然に満ち溢れた海でも、コンテナ船やクルーズ船が就航する都市の海にも存在しています。

しかし、近い将来、生物よりも海ごみのほうが多くなると発表されているように、課題もまた様々存在しています。海に住む生き物たちにとっても、住みづらさを感じるような場面を多く見た2021年でした。私達ふくおかFUNはそんな魅力と課題の両方を考え、議論し、伝えていく団体です。

授業や講演だけでなくフィールドに出て活動を行える日も少しずつ増えてきました。

しかし“少しずつ”なのが現状です。

海はつながっている。

福岡の海をフィールドにしていますが、私達は地球の海を守っているという想いで日々活動しています。

この冊子を手にした一人ひとり生活環境も社会環境も違います。

それぞれに出来ることもまた変わってくるはずです。

「○○をすべきだ」

と断定していくのではなく、それぞれが少しずつ出来ることを行っていく。

それがひいては地球を守ることに繋がっていきます。

誰一人取り残さない社会実現の中には海の生き物たちや海藻（海草）も含まれています。

難しいことは抜きにして、あなたにとっても

誇らしい海を目指して、ふくおかFUNはこの1年間も全力で駆け抜けます。



代表理事
大神 弘太郎

第7期を振り返って

ふくおかFUNは2021年11月末をもって第7期を終了いたしました。これまで、たくさんの温かいご支援・ご指導を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

第7期も、新型コロナウイルス感染拡大による授業や講演、イベント等の中止を余儀なくされた状況が続きました。

しかしながら、団体内だけでなく連携先の行政機関や企業の皆さまとともに「今だからできること」「伝え続けるためにできること」を考え、想いの輪をより強く大きなものへと拡げながら日々の活動に取り組むことができました。

ふくおかFUNの活動は、ウィズコロナ時代においても新たな場所・場面において、多くの皆さまと手を取り合いながら「海と人をつなぐ」機会を生み出し続けています。

2021年は、海洋汚染やアオサの大量発生問題などの解決に向け、様々な地域や企業の枠を越えた数多くの連携がスタートした一年となりました。

人々の生活や行動のカタチが変わっても、ふくおかFUNの理念である【自然伝承】への想いは変わりません。今後も「人との出会い」「海と人との出会い」を大切にしながら、水中世界の魅力や課題を発信し続けていきます。





潜る



第7期、ふくおかFUNは75回の潜水（調査・撮影・イベント）を実施しました。

撮影した映像は、様々なメディアを通して発信され、陸上からでは見ることのできない水中世界の魅力と課題を多くの方々へ届けることができます。

なかでも、全国ネットで放送されたNHK『ザ・ライフ 人とプラスチックとこの世界～九州 海辺の風景～』は、博多湾に潜り続けるダイバーだからこそ見える世界を広く伝え、大きな反響をいただきました。

また、市民イベントや企業CSRの取り組みで植え付けたアマモが成育し、藻場が確実に広がっていることを確認することができました。継続的な潜水調査を実施することで得た映像データは、行政や研究者と共有し、発展的な情報の蓄積を進めています。

さらに、福岡市漁業協同組合からの委託による「マコガレイの生息環境保全に関する調査」や、九州大学と共同で実施した「沿岸域における磯焼け対策に関する研究」など、潜水技術を活かした活動は、団体内にとどまらず拡がり続けています。

コロナ禍においても水中世界を発信していくため、動画制作だけでなく、ダイバーが水中で撮影した映像をオンラインで生配信するイベントにも挑戦しました。

海洋ごみ問題や地球温暖化など、水中世界を取り巻く環境課題が世界中で注目を集めています。

ふくおかFUNは、課題だけでなく魅力も同時に伝えながら、持続可能な課題解決を実施し続けています。



伝える



2021年度、代表の大神弘太郎が福岡ECO動物海洋専門学校（福岡市博多区大博町）の講師に就任、海洋生物保護専攻を受け持ち、フィールドワークを中心とした講義を行いました。

また、ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会の取り組みとして、福岡市立長尾中学校（福岡市城南区樋井川）において海洋ごみ問題に関する全4回（各100分）の連続授業を行うなど、第7期は若い世代に「伝える」多くの機会が生まれました。

イベントにおいては、第6期と同様にWeb会議システムも活用し「楽しみながら」水中世界を学ぶ機会を生み出し続けました。海でのイベントとオンラインイベントを、時と場合に応じて選択しながら行ったことで「伝える」場面が多様に拡がり続けています。

さらに、前期（第6期）大量発生しているアオサを有効活用するため「アオサの紙すき実験イベント」を行いながら、課題の発信と解決に向けた試行錯誤を行っていた「アオサ実用化プロジェクト」は、食品加工への取り組みが実を結び、アオサを使用したふりかけ作りのイベントの実施・運営を受注するまでに発展しました。

試行錯誤しながらも伝え続けたことが、多くの連携を生み、課題解決へ向けて前進しています。

小さな未就学児からご年配の方々まで、様々な場所・場面で、ふくおかFUNの理念である【自然伝承】への想いが繋がった一年となりました。



考える



気候変動や生物多様性の喪失、海洋ごみ問題など、多様な主体と連携しながら考えていかなければならない環境課題が世界中で注目されています。ふくおかFUNは「博多湾NEXT会議」に参画し、アマモ場をはじめとした藻場に蓄積される炭素「ブルーカーボン」の役割を行政・漁業関係者・企業・教育機関・市民の皆さまと共に考え、地球温暖化の緩和に取り組んでいます。

第7期は、オンラインで開催された「博多湾シンポジウム」において、アマモ場づくりとSDGsについて考え、豊かな博多湾を未来に伝えていくための取り組みを発信しました。

さらに福岡都市圏（福岡市を含む近隣の17市町）の行政職員と一般市民およそ100名が参加して開催された「福岡都市圏 海洋ごみ問題シンポジウム」では、様々な機関の連携が

環境課題解決に繋がることを皆で考え、これから一歩を踏み出すスタートラインで「ダイバーだからこそ」見える世界を共有することができました。

第7期、ふくおかFUNは、活動の中心である福岡市の枠を越え、より多くの視点や地域から環境問題について考える機会を数多く生み出しました。

どんな場面においても、まずは、身近に広がる水中世界の魅力を伝え、その感動をもって課題を考えることで、「楽しみながら」「前向きに」解決に向けて取り組んでいけるような活動を心掛けています。

今後も、多様な主体の方々との連携を強化し、それぞれの視点を活かした取り組みを実施することで、持続可能な環境課題解決を目指していきます。



解決する



2021年4月より、毎月15日に「#あしもとから」と題したクリーンアップ活動を行っています。

この毎月の清掃活動は、コロナ禍においても継続して活動と発信を行ったことで、行政や企業、教育機関へと連携の輪が広がっています。

11月には、ふくおかFUNとして最大規模のイベント「FUNクリーンアップデー」を3年連続で実施。ダイバーと市民の総勢100名が一体となって行っている海中海岸同時清掃は、今年も大きく注目され、各メディアでも取り上げられました。

また、海洋ごみ問題だけでなく、大量発生しているアオサ（アナアオサ）を回収し、実

用化を目指す「アオサ実用化プロジェクト」は連携企業との商品開発を行い、大きく前進することができました。商品を手にすることで海と人が繋がり、さらには環境課題解決にも繋がるというスキームが着実に組み立てられています。

さらに、藻場の造成・再生を目指し、アマモの栽植や種入れも実施することで、人の手による水中環境改善に向けた積極的なアプローチを実施・発信することができました。

第7期の潜水調査において、これまでアマモの群生地ではなかった小戸公園（福岡市西区）の藻場が2018年から2021年の期間で約350㎡まで増加したことを確認しています。

ふくおかFUN 活動のながれ

1.

魅力と課題
の発見

まず大切にしているのは事実情報。
インターネットの情報も有用だけ
ど、自分たちの目で見て感じたこと
をととても大切にしています。

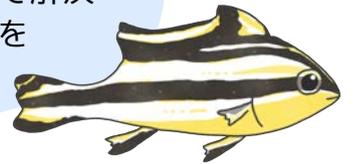


社会課題は何なのか？
誰が困っていてどうすれば
解決できるのかを
考えます。



2. 社会課題解決
を考える

自分たちだけで解決できるほ
ど海の課題解決は容易ではあ
りません。だからこそ様々な
機関と連携して、本気で解決
できるチーム作りを
行います。



3.

連携する

ここまで来たら実践！
多様な主体と連携し、今、
取り組むべき社会課題を解決
していきます。もちろん
魅力の発信も
忘れずに。



4.

本気で解決する

翻訳・発信する

取り組んだことを社会に向けて発信します。
様々な年代や立場の方々に合わせて、言葉や
行動をデザインします。



第8期に向けて

第8期（2021年12月1日～2022年11月30日）のテーマは
“資源を活かす”

これまでの7年間、ふくおかFUNは数多くのご縁をいただきながら活動を行って参りました。

第8期、そのご縁をカタチにしながら、これまで以上に多くの方々と共に魅力発信、課題解決に向き合っていきたいと考えています。

特に、2022年春頃には、大量発生していることで「海のお困りごと」となっているアオサ（アナアオサ）を活用した食品の販売を予定しています。

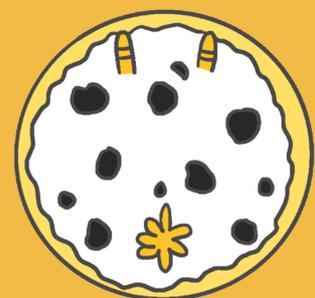
「これまで負の産物になっていた海藻を活用し、美味しく食べることで海の問題解決に繋がる」

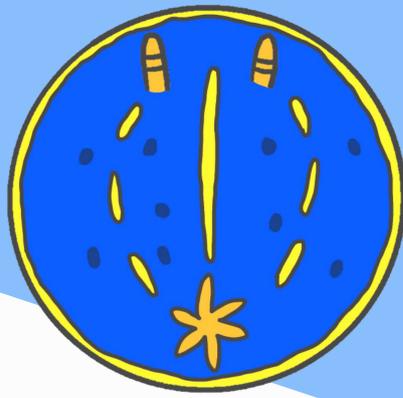
漁師さん、水産加工業者さん、製塩所さん、その他多くの方々にご協力いただき、この一大プロジェクトがスタートしました。

プロジェクトの最終目的は、大量発生したアオサを間引くことではありません。間引かれた海で海中環境を改善、見守り伝えていくという、次のステップが存在しています。

海の問題は多角化していますが、ひとつひとつ丁寧に向き合っていきたいと考えています。

長期的な関わりが必要な環境問題だからこそ、皆で力を合わせ、楽しく向き合っていけると嬉しく思います。今後とも、ふくおかFUNをどうぞ宜しく願いいたします。





2014
2015

- 1 2月 設立、登記
- 2月 博多湾の生物多様性や環境保全について伝える活動「海の学校」を始める
- 3月 小中学生を対象とした「“ひろい”海の活動」事業を始める
- 4月 福岡市の後援を受ける
「災害救援ダイバー育成」事業を始める
福岡の海の「水中環境調査・観測・撮影」事業を始める
スキューバダイビング1日体験「FUN海体験」事業を始める

2016
2017

- 1 2月 福岡市役所内にて博多湾の水中写真展を行う
- 3月 スキューバダイバーより博多湾の環境保全基金を募る
- 3月 福岡アジア美術館にて水中写真映像展「ふくおかのうみ展」を開催
- 4月 福岡市環境局保健環境研究所との共働事業「地行浜いきものプロジェクト」を始動

2018

- 1 0月 当団体代表・大神弘太郎が「一般財団法人セブン-イレブン記念財団」が主催する「第20回環境NPOリーダー海外研修」のメンバーに選出、ドイツに渡航する
- 1 1月 福岡市西区生松台3丁目19番5号に事務所移転
- 3月 福岡市中央区「天神CLASS」にて水中写真・映像展「ふくおかのうみ展」を開催
- 4月 福岡市農林水産局水産振興課との共働事業「FUKUOKAおさかなレンジャー」を始動

2019

- 5月 博多湾NEXT会議に参画
- 6月 第9回「福岡市環境行動賞」優秀賞を受賞
- 4月 「海ごみ回収プロジェクト」を始動
- 7月 福岡市科学館とのコラボ企画「夏うみダイビング～海中から生中継サイエンスショー～」を開催
- 1 0月 海中海岸同時清掃イベント「FUNクリーンアップデー」を開催

2020
2021

- 1月 「アオサ実用化プロジェクト」を始動
- 4月 YouTubeチャンネル『ダイバー先生』を開設
- 4月 当団体代表・大神弘太郎が福岡ECO動物海洋専門学校の非常勤講師に就任
- 5月 九州大学との共同研究「沿岸域における磯焼けに関する研究」始動
- 7月 当団体代表・大神弘太郎が福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」のアドバイザーに就任
- 9月 ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会より「海洋ごみ問題学習授業企画・運営業務」を受託

HISTORY



サポーター募集

ふくおかFUNでは、団体理念や活動趣旨に賛同いただける方々のご参加・ご支援を募集しています。

【個人の方】

当団体のサポーター会員にご登録いただける方は、ホームページからご希望のプランをお選びいただき、お支払方法をご確認のうえ、お手続きくださいますようお願いいたします。

会員の皆さまへは、ふくおかFUNの活動報告を記載した報告紙およびオリジナル特典をご登録住所へ随時発送します。

サンゴタツ会員	6,000円/年（月々払い:500円）
ハナタツ会員	12,000円/年（月々払い:1,000円）
タツノオトシゴ会員	36,000円/年（月々払い:3,000円）
アマモ会員	3,000円/年（月々払い:不可）

【企業の方】

1口：10万円～

口数に応じて、当団体のHPやSNSにロゴの掲載等の特典をご用意しております。詳しくはお問い合わせください。

第7期にご支援いただいた企業および団体様（五十音順）



有限会社がんこ本舗 様



ビューティー
ライフラボ 様



bond lamp 様



継美隊
八坂工芸 様



立正佼成会
立正佼成会 様



ロート製薬
かるがも基金 様

SUPPORT



Field & Und

一般社団法人ふくおかFUN

〒819-0044

福岡県福岡市西区生松台3-19-5

TEL & FAX 092-407-6970

mail : uminogakko@fun-fukukoka.or.jp

web : <http://fun-fukuoka.or.jp>

